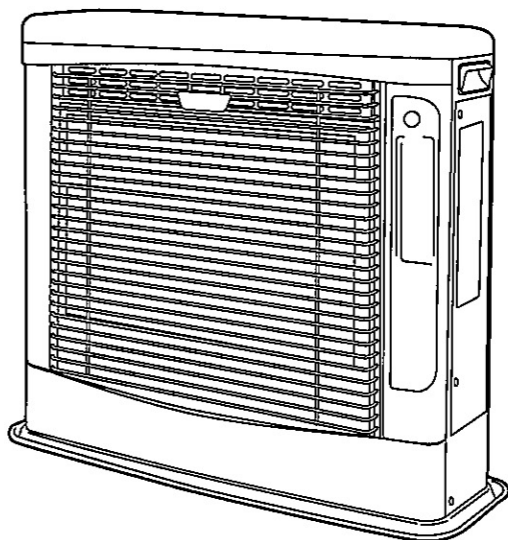
CORONA

コロナ密閉式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使って上手に節約

UH-FGX70K4

このたびは、コロナ石油ストーブ（UH型）をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に「保証書」・「工事説明書」と共に大切に保管してください。

もくじ

1 特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合はガソリン禁止）が描かれています。

❗記号は行為を指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告（WARNING）

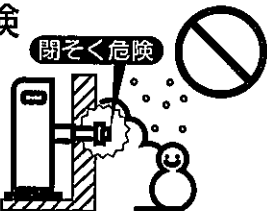
ガソリン厳禁

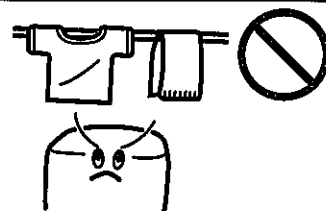
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

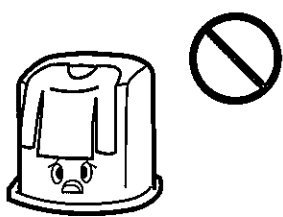
給排気筒（管、ホース）外れ危険

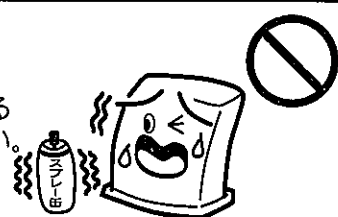
給排気筒（管、ホース）が外れたまま使用しないでください。
外れていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

給排気筒トップ閉そく危険

給排気筒トップの周りが雪でふさがれたままで使用しないでください。ふさがれているときは、除雪してください。閉そくしていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

温風吹出口をふさがない

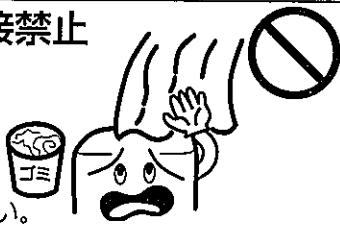
衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。

スプレー缶厳禁

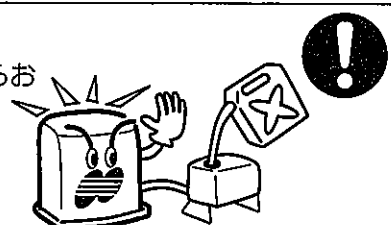
スプレー缶やカセットこんろ用ボンベなどを、温風のあたるところに放置しないでください。
熱で缶の圧力が上がり、爆発して危険です。

低温やけどに注意

長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。
比較的低い温度でも低温やけどや脱水症状の原因となります。

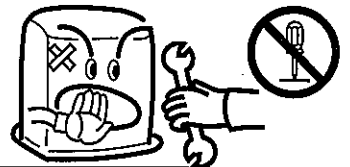
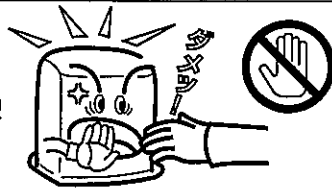
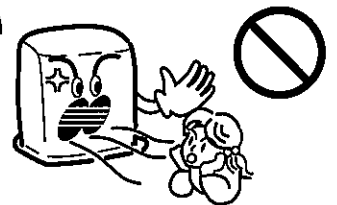
⚠注意（CAUTION）

カーテン・可燃物近接禁止

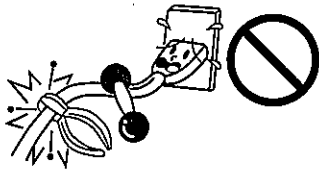
カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。
火災が発生するおそれがあります。可燃物との離隔距離については標準据え付け図例（26ページ）を参照してください。

給油時消火

給油は、必ず消火してからおこなってください。
火災のおそれがあります。

⚠注意(CAUTION)

異常時使用禁止
万一異常を感じたときは、使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

分解修理の禁止
故障・破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

高温部接触禁止
燃焼中や消火直後は、高温部（ストーブ前面のグリルの周辺や枠上部前面など）給排気筒トップに手などふれないでください。やけどのおそれがあります。

温風に直接あたらない
温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

腰をかけたり、物をのせないで
機器の上にのったり、腰をかけたりしないでください。機器の故障ややけどのおそれがあります。
機器の上に花びんや水を入れたものなどを置かないでください。水がかかると漏電や故障のおそれがあります。

改造使用の禁止
改造して使用しないでください。また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内にもれる原因となり危険です。

電源コードを傷めない
電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりしないでください。また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。火災や感電の原因になります。

電源プラグは確実に差しこむ
電源プラグはコンセントに根元まで確実に差しこんでください。また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
火災の原因になります。
ぬれた手での抜き差しはしないでください。
感電の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く
長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

電源プラグのお手入れをする
ときどきは電源プラグを抜き、ほこりおよび金属物を除去してください。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になります。

指や棒を入れないで
温風吹出口や空気取入れ口などに指や異物を入れないでください。
ケガや火災の原因になります。

変質灯油禁止
変質灯油、不純灯油（汚れた灯油、水の混じっている灯油など）を使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

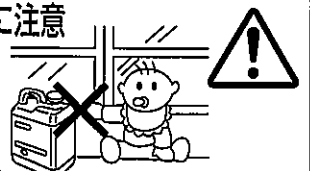
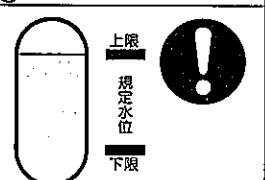
フィルタをはずしての運転禁止
対流用送風機のフィルタをはずした状態で運転しますと、カーテンなどを巻きこんで火災になるおそれがあります。
また手などふれるとけがをするおそれがあります。

灯油の保管
灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光をさけた場所に保管してください。
ガソリンなどといっしょに保管しないでください。
誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。

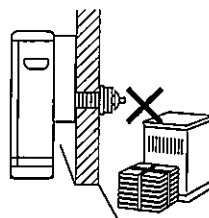
電源の接続
電源は適正配線された単相100Vのコンセント以外は使用しないでください。発熱・発火の原因になります。電源コードは、途中で接続したり、延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。発熱・発火の原因になります。

初めてお使いになるときの注意
初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼き付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気をおこなってください。
また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

カーペットのはがれに注意
カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。
床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。

循環液（循環水・不凍液）の保管に注意
幼児の手の届かない所に保管してください。
万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。

シスターンの水位に注意
循環水は、上限水位以上入れないよう注意してください。
あふれる場合があります。

⚠注意(CAUTION)

給排気筒付近の可燃物近接禁止

給排気筒トップの近くに、灯油や可燃物など
引火のおそれのあるものを置かないでください。
火災のおそれがあります。

お願い(NOTICE)

機器を廃棄するときの注意

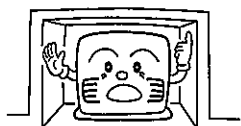
ストーブを廃棄処分するときは、定油面器の灯油を
抜き取ってください。(19ページ)
灯油を入ったまま廃棄するとリサイクルの際に
思わぬ事故になるおそれがあります。

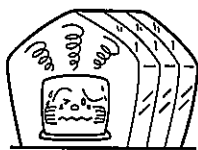
灯油の廃棄

灯油の廃棄処分は、灯油をお買い求めになった
販売店にご相談ください。

2 使用する場所

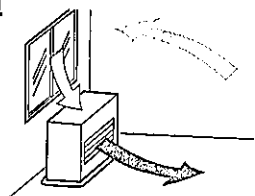
ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

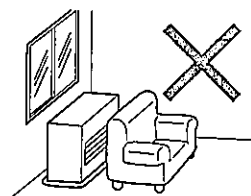
安全に使用するために

●マントルピースなどに据え付ける場合は、標準据え付け例にしたがってください。(☞26ページ)

●標高が1500m以上の場所では使用しないでください。高地で使用される場合は調整が必要です。
(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。詳しくは、工事説明書 **高地または延長給排気で使用の場合** をご覧ください。)

●温室、飼育室、乾燥室などでは絶対使用しないでください。
●温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。

効果的に使用するために

窓の下や壁面に設置

●外気に接する窓の下や壁面に置くと、冷気がストーブで暖められ、温風として対流しますので効果的です。

温風の循環を妨げないで

● ご注意 温風吹出口の前面に障害物を置かないでください。
障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、本体の温度が上昇して危険です。

●温風吹出口側の空間を広くとれる場所を選んでください。

●ストーブ前面からはふく射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。
●温水配管の長さができるだけ短くなるような位置にストーブを設置してください。

3 各部の名称

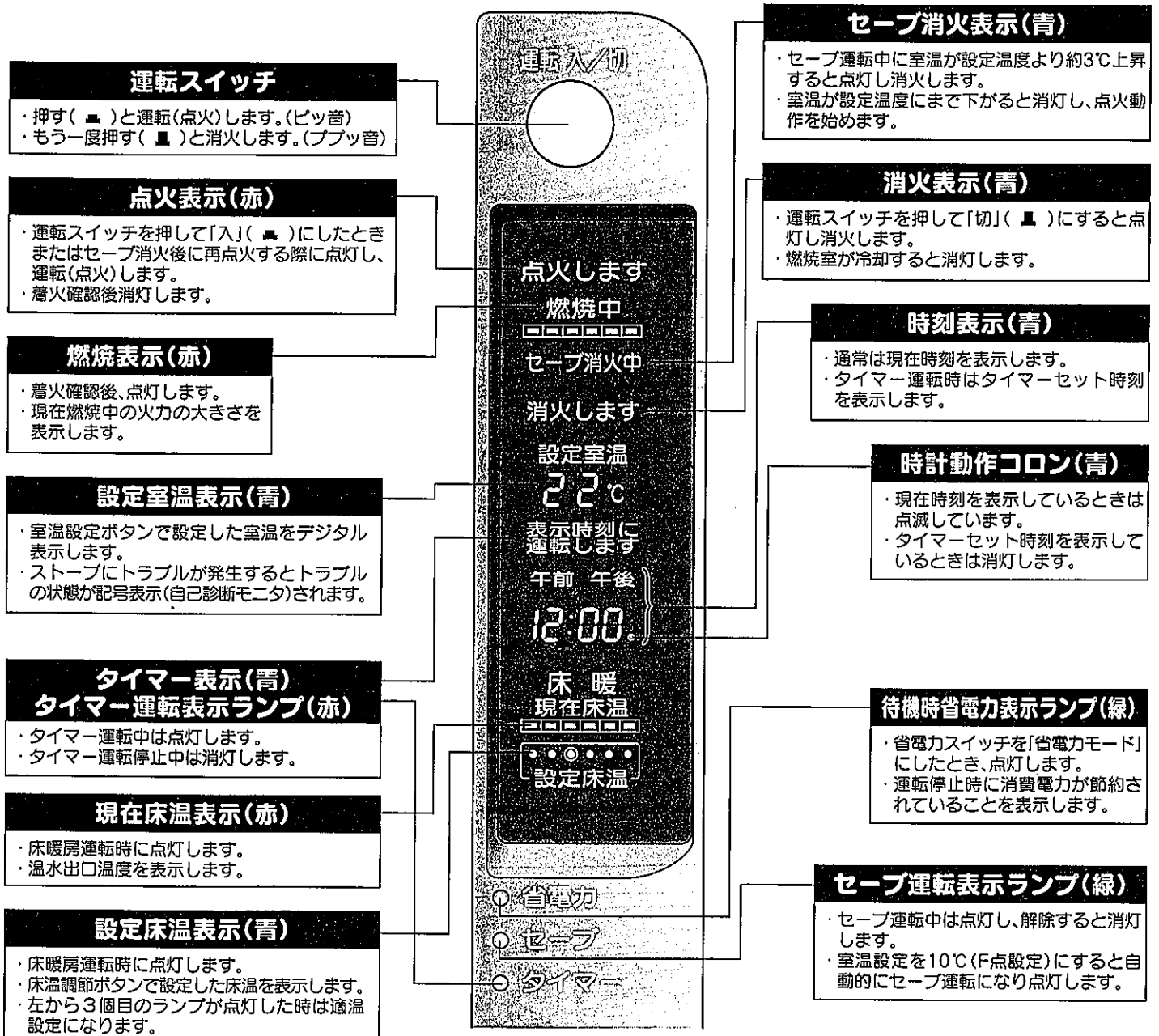
外観図

正面
温風吹出口
前面ガード
ガラス円筒(内部)
平面ガラス
前板
置台
上面板
運転スイッチ
操作部
(ウイングポケット)
表示部
定油面器リセットボタン
背面
フィルタ(空気取入口)
給気ホース
燃焼用送風機(内部)
ゴム管口
電源コード
排気筒抜け検知用
リード線
ルームサーモ
循環ポンプ(内部)
とって
本体固定金具
アクチュエータ(内部)
(リニアダンパ)
給排気筒
熱交サーモ(内部)
熱交保護サーモ(内部)
給水口(内部)
水位計
エアー抜きバルブ
温水戻り口
(A・B回路)
温水往き口
(A・B回路)
構造図
過熱防止サーモスタット(右)
過熱防止サーモスタット(左)
対流用送風機(内部)
熱交換器(内部)
放熱器
反射板
スケルトン
燃焼リング(内部)
シスターンタンク
フレームロッド
静圧ホース
ポットバーナ
気化筒(内部)
サーモスタット
機内サーミスタ
表示サーミスタ(内部)
プリント配線板
点火プラグ
イグナイタ(内部)
電磁ポンプ
スピーカ
定油面器
対震自動消火装置(内部)
送油管

表示部の名称と働き

※イラストは説明のため全部表示した状態にしてあります。

■「音声お知らせ」の内容

●通常の運転操作(「点火」・「消火」・「タイマーセット」)をおこなうとき、文字と同時に音声("点火します"・"消火します"・"タイマーセットしました")で操作状態をお知らせします。

■表示部の明るさ調節

●時計調節スイッチを「通常」に合わせて「時」ボタンを押しながら「分」ボタンを押すことにより、表示部の明るさを2段階に調節することが出来ます。

ウィングポケット内操作部の名称と働き

■「音声お知らせ」の内容

●ウイングポケットを軽く押しこむと、ゆっくり出てきます。操作後軽く押しもどすとロックして止まります。

■操作音について

●操作ボタンを押すとブザー音がします。
●誤操作をするとピピッ音がします。

■「音声お知らせ」の消音方法

●時計調節スイッチを「通常」に合わせて「時」ボタンを押しながら「セーブ運転」ボタンを押すことにより、「音声お知らせ」を消音することが出来ます。

使用前の準備

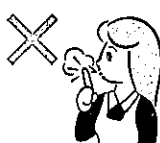
燃　料

燃料は必ず灯油（JIS１号灯油）を使用してください。

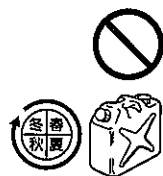
● ⚠警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。
● ⚠注意 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。
● ⚠注意 灯油は、必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光をさけた場所に保管してください。

灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
（火の気のない所でおこなってください。）

灯油は ぬれたまま

ガソリンは すぐ乾く

変質灯油・不純灯油とは……

昨シーズンより持ち越しの灯油

長期間日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油

容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油

水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかでも混入した灯油

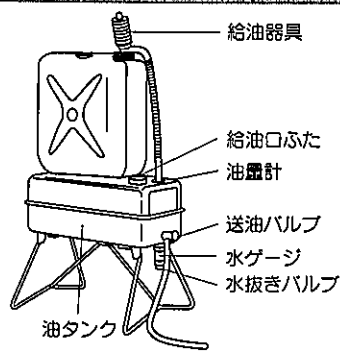
●極度に変質したものは、黄色味がかったり、すっぱい臭いがします。
●必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
●灯油はシーズン中に使いきりましょう。

■変質灯油や不純灯油を使用すると…
●油の程度にもよりますが、燃焼不良をおこしたり、ストーブの損傷を早め、故障の原因になります。
●水やごみが送油経路に流れこみ、燃焼不良や着火不良の原因になります。

■万一変質灯油や不純灯油を使用したときは…
●お買い求めの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。

ご注意

●変質灯油、不純灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
●変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買い求めの販売店にご相談ください。

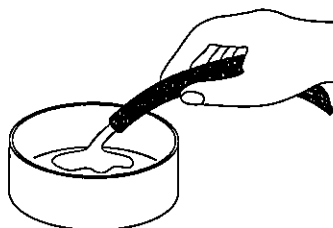
給　油

■給油の際の手順と注意

●送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし、市販の給油器具で灯油を給油してください。
油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。
●給油口ふたを必ずもとどおりに確実にしめてください。
●給油の際に、水、ごみなどを入れないよう特に注意してください。

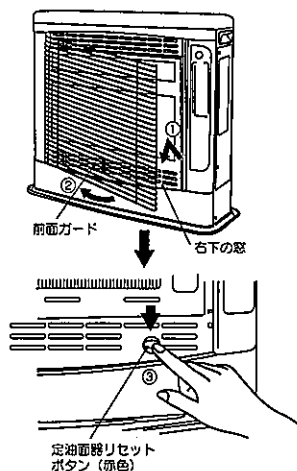
■給油口ふたは、確実に締めてください。
■こぼれた灯油はよくふきとってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないよう注意してください。

●油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。
このような場合は次の順序で空気抜きをしてください。

1.油タンクに給油します。
2.ストーブのゴム管口から、ゴム製送油管をはずします。
3.ゴム製送油管から油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。
（油がこぼれないように容器を用意してください。）

運転開始前の準備と確認

■定油面器のセット、取扱上の注意

初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ正面右下の定油面器リセットボタンを押してください。

① 差し込まれている前面ガードの右下のロッドを上へ押し上げながら手前にはずし､次に右上のロッドも下げてはずしてください。
② 前面ガードを手前に開いてください。
③ ストーブ正面右下の窓から見える定油面器リセットボタン(赤色)を下へ押し下げてください。

ご注意

●リセットボタンは据え付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一、点火操作後灯油が出ずにモニタサイン[E1]または[E2]が表示されるような場合はリセットボタンを押してください。

●リセットボタンは乱暴に扱ったり、押したままの状態には絶対にしないでください。

■送油経路の油もれの確認

●油タンクや送油管の接合部などから油もれがないかどうか確認してください。

■電気配線の確認

● ⚠注意 **電源プラグをコンセントに根元まで確実に差しこんでください。**
●電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

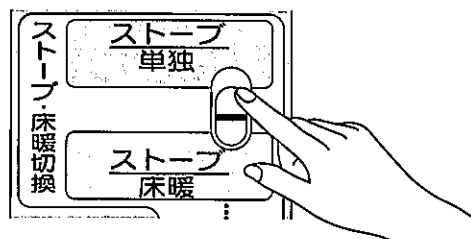
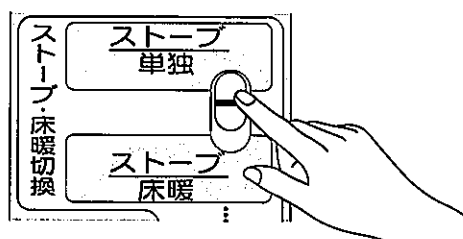
⚠注意 **電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために･･･**

●電源は必ず適正配線された単相100Vのコンセントを使用してください。
●電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。
●雷が発生したときは､電子部品を損傷するおそれがありますので､電源プラグをコンセントから抜いてください。

■点火の要領と注意

床暖切換スイッチのセット

● ストーブ単独で運転する場合は｢ストーブ単独｣に､ストーブ床暖房運転をおこなう場合は｢ストーブ床暖｣に床暖切換スイッチをセットしてください。

ストーブ床暖房で運転する場合

ストーブ単独で運転する場合

循環水の水位確認

● ⚠注意 ストーブの左側面の水位計で、シスターンタンクの規定水量（上限水位と下限水位の間）まで循環水（コロナ床暖房用循環液）が入っていることを確認してください。
循環液が入っている場合は黄色になります。
循環水は上限以上入れないように注意してください。
水位が下限以下の場合は床暖房専用補充液を入れてください

温水配管の水もれの確認

●ストーブ内部や温水配管接合部から水もれがないか確認してください。
●床暖パネルの温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

■運転中に床暖切換スイッチを操作した場合

● ストーブ単独→ストーブ床暖房 …「ジュー」とゆう循環水の蒸発音がすることがありますが異常ではありません。
● ストーブ床暖房→ストーブ単独 …循環ポンプは本体内部冷却のため約10分後に停止します。

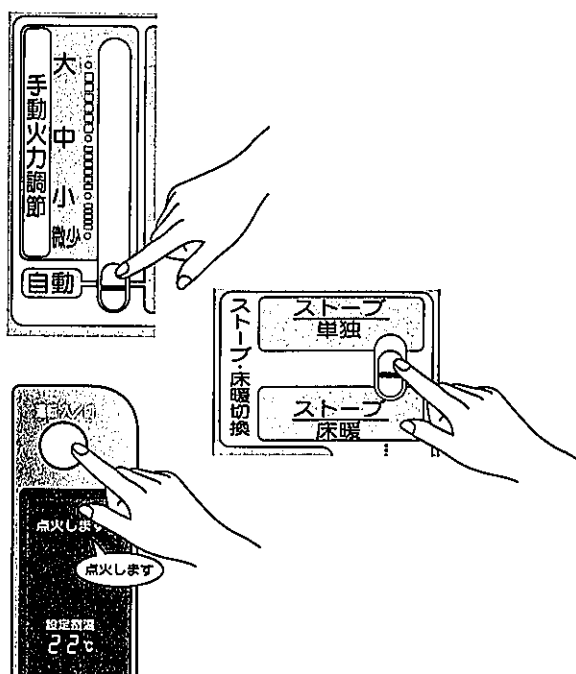
5 使用方法（使い方）

運転開始（点火）

ウイングポケット内の火力調節つまみで「自動運転」と「手動運転」が設定できます。
ご希望の運転方法でご使用ください。

点火順序

■火力調節「自動運転」の場合

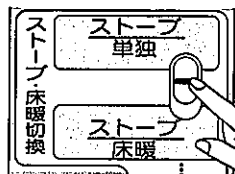
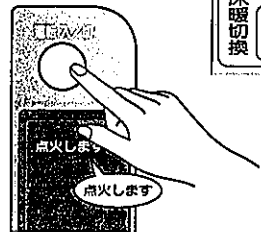
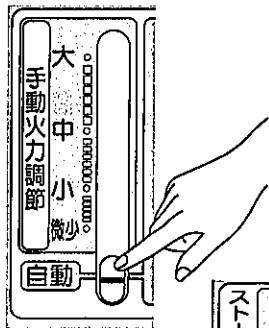
ストーブ床暖房運転

1 火力調節つまみを「自動」にあわせる

● ルームサーモによる自動運転となり設定室温に自動調節されます。
ルームサーモはできるだけ部屋の温度を代表できる位置に取り付けてください。

2 ウイングポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」に合わせる

3 運転スイッチを押して「入」にする

● "点火します"の音声と同時に「点火します」と「設定室温」が表示されます。
● 予熱が完了すると自動点火し、表示が「燃焼中」に変わると温風が出ます。
● 着火とともに循環ポンプが作動し、床暖房を開始します。

ストーブ単独運転

1 火力調節つまみを「自動」にあわせる

● ルームサーモによる自動運転となり、設定室温に自動調節されます。
ルームサーモはできるだけ部屋の温度を代表できる位置に取り付けてください。

2 ウイングポケット内の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」に合わせる

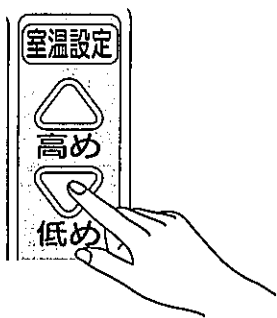
3 運転スイッチを押して「入」にする

● "点火します"の音声と同時に「点火します」と「設定室温」が表示されます。
● 予熱が完了すると自動点火し、表示が「燃焼中」に変わると温風が出ます。

ご注意

●着火時、放電音と同時に着火音を発することがありますが、異常ではありません。
●点火操作から放電(着火)までは、約2分間です。（室温により予熱時間が多少変化します。）
●着火後温風が出始めます。
●運転スイッチを「入」にしたとき、タイマー表示「表示時刻に運転します」が点灯する場合は、タイマー運転となりますのでタイマーセットボタンを押してタイマー運転を解除してください。

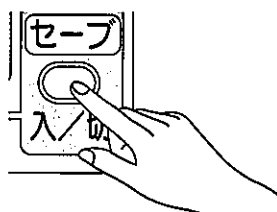
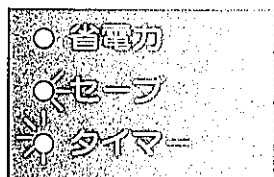
室温の調節（自動運転）

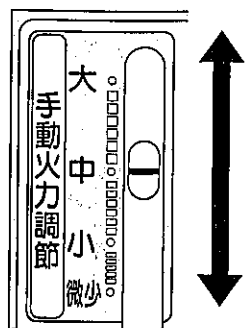
ウイングポケット内の火力調節つまみを「自動」に合わせるとルームサーモによる自動運転となり、設定室温に自動調節されます。表示部に設定室温(22℃)が表示されますので次のように調節してください。

● 室温設定ボタン「高め」を押すたびに1℃上昇します。(上限29℃)
● 「低め」を押すたびに15℃までは1℃ずつ下がり、15℃からはいきなり10℃(F点設定)となります。
● 10℃設定の場合は自動的にセーブ運転表示ランプが点灯し、セーブ運転となります。

（設定室温を15℃以上に上げるとセーブ運転表示ランプが消え、セーブ運転が自動的に解除されます。）

セーブ運転

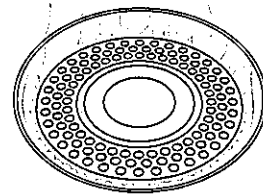
ストーブ火力調節「自動」運転時に微少火力でも室温が設定室温より上昇する場合、設定室温より約3℃上昇すると自動的に消火し、設定室温まで下がると点火動作に入ります。これをくり返すことによりむだな部屋のあたため過ぎを防ぎます。

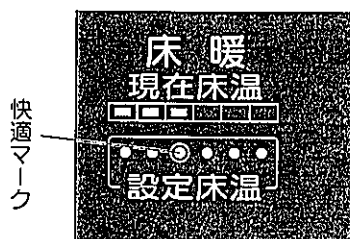
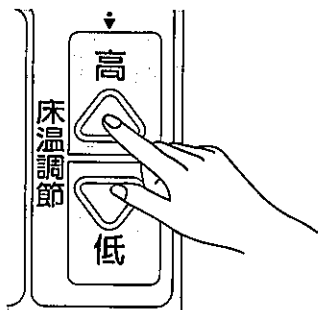
● 室温設定ボタンにより希望の室温設定後、セーブ運転ボタンを押してください。セーブ運転表示ランプが点灯し、セーブ運転となります。
● セーブ運転ボタンを再度押すことによりセーブ運転表示ランプが消え、セーブ運転解除となります。

火力調節（手動調節－手動運転）

・室温設定による自動運転の他に火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。次のようにしてください。

● ウイングポケット内の火力調節つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
手動火力調節つまみの設定火力で燃焼します。

■炎の状態

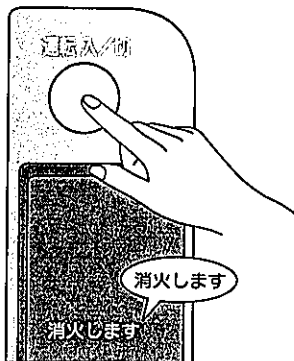
ストーブの据え付けや給排気筒の設置条件で炎は多少変化します。

●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）が混じっても異常ではありません。

床暖パネルの温度調節

ストーブ床暖房運転の場合、循環水が設定温度になるように自動的に温度調節されます。また、設定床温表示に快適マークがついています。快適マークは、床暖パネルのカーペット表面をほぼ33～34℃（床暖パネル3畳の場合）に保つ循環水温度を示します。ご参考にされると便利です。

1. 特に温度設定しない場合は、自動的に快適マークの位置（設定床温表示の3つ目）に設定されます。
2. 床温調節ボタンを押すと次のように床温調節でき設定床温表示のランプも移動点灯します。
   ・「低」…1回押すたびに設定温度を下げる
   ・「高」…1回押すたびに設定温度を上げる

ご注意

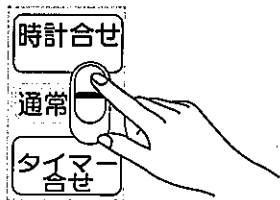
●床暖の温度調節は、足元（床暖パネルの表面温度）の温度調節のためであり、部屋全体の温度調節ではありません。カーペットの表面温度が熱くなりすぎないよう使用温度には十分注意してください。

運転停止（消火）

消火順序

運転スイッチを押して「切」にする

- "消火します"の音声と同時に、燃焼表示が消灯し、「消火します」が点灯します。
- 消火後は本体内部が冷却するまで送風・循環を継続し、約10分後に対流用送風機、循環ポンプが停止します。（循環ポンプの運転はストーブ床暖運転のみ）

- ⚠注意　2日以上家をあけるなど長期間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 外出のときは、必ず運転を停止（消火）してください。
- 運転停止後、燃焼室が冷却（消火表示が消灯）するまでは電源プラグを抜かないでください。もし、抜きますと、ストーブの表面温度が上昇します。

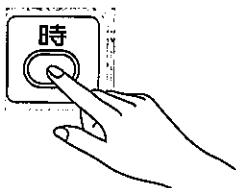
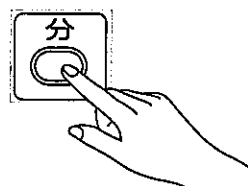
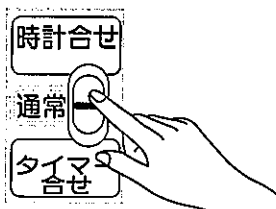
現在時刻の合わせ方

1. ウイングポケット内の時計調節スイッチを「時計合せ」にします。はじめて使用するときや電源プラグを長時間抜いたときは、時刻表示は－:－－.を表示します。
2. 時計調節の「時」・「分」ボタンを押して現在時刻を合わせます。

例：午前６時15分に合わせる場合

①「時」ボタンを押して"午前６：００."にします。　②「分」ボタンを押して"午前６：１５."にします。

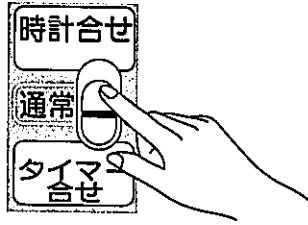
午前
6:00.

午前
6: 15.

時計合せ
通常
タイマー合せ

3. 必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。

お願い

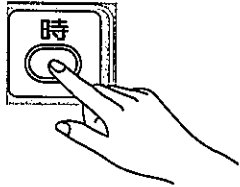
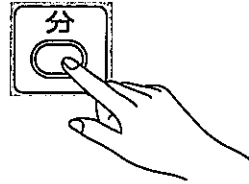
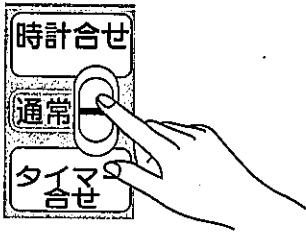
- 必ず時計調整スイッチが「通常」になっていることを確認してください。
- 30秒以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合わせの必要はありません。それ以上の停電で時刻表示が－：－－.を表示したら時刻合わせをおこなってください。

タイマーの使用方法

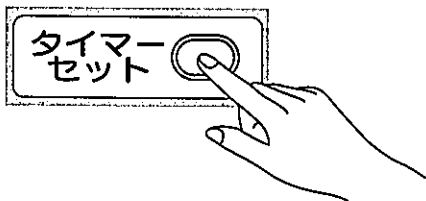
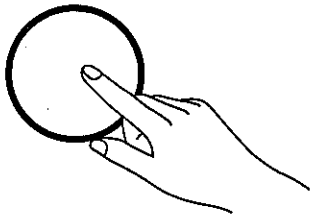
■運転時刻の合わせ方

1. ウイングポケット内の時計調節スイッチを「タイマー合せ」にします。
2. 時計調節の「時」・「分」ボタンを押してタイマー点火時刻を合わせます。(「分」は5分ごとに動きます。)

例:午前6時30分に合わせる場合

①「時」ボタンを押して"午前6:00"にします。

②「分」ボタンを押して"午前6:30"にします。

これでタイマーセット時刻が記憶されました。

3. 必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。これで時刻表示には現在時刻が表示されます。

■タイマー運転方法

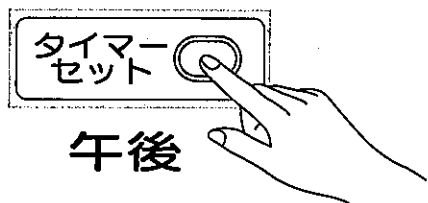
ストーブ床暖房運転 | ストーブ単独運転

1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
   (燃焼中の場合はそのままです。)
2. 運転するときのご希望の室温または、火力に合わせてください。
3. 床温調節ボタンで、床暖温度をご希望の温度に合わせてください。
   (ストーブ床暖房運転のみ)
4. タイマーセットボタンを押してください。
   「タイマーセットしました」の音声と同時に、時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示「表示時刻に運転します」が(燃焼中の場合は消火表示「消火します」も)点灯し、タイマー運転に入ります。
   (このとき本体内部冷却のため対流用送風機、循環ポンプ(ストーブ床暖房運転のみ)が10分間運転します。)

●タイマーセット時刻になるまでは時刻表示にタイマーセット時刻、タイマー表示「表示時刻に運転します」とタイマー運転表示ランプが表示され続けます。
●燃焼中にタイマーセットボタンを押すとストーブは自動消火し、運転を停止します。

ご注意

●タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
●外出時など留守中に燃焼を開始するようなタイマーセットは、絶対にしないでください。

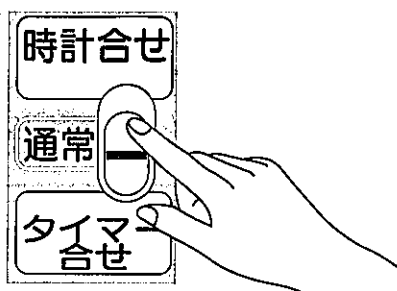
タイマーの解除

■タイマー運転の解除

10:30.

● タイマーセットボタンを押します。
タイマー表示が消灯し、時刻表示に現在時刻が表示され(時計動作コロン点滅)タイマー運転が解除されます。
● このままであれば点火表示「点火します」が点灯し、自動的に運転を開始します。運転を停止する場合は、運転スイッチも「切」にしてください。

■タイマーセット時刻・現在時刻の確認

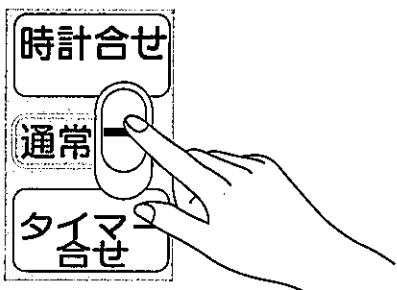
●タイマーセット時刻の確認

・時計調節スイッチを「タイマー合せ」に合わせます。

午前

6:30

時計表示にタイマーセット時刻が表示されます。

●現在時刻の確認

・時計調節スイッチを「時計合せ」に合わせます。

午後

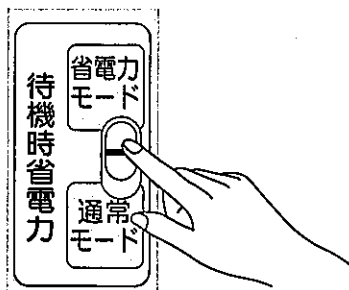
10:30.

時計表示に現在時刻が表示されます。

●確認後、時計調節スイッチは、必ず「通常」位置にもどしてください。

待機時省電力スイッチの使用方法

待機時省電力スイッチを「省電力モード」にセットしておくと、タイマー運転中および運転停止時に表示部を消灯して、消費電力を1Wに節約できます。

■使用方法

● 「省電力モード」にすると省電力ランプが点灯し、自動的に表示部を消灯します。(運転中のセットは、運転停止後約2秒で表示部を消灯します。)
● 表示部が消灯中にいずれかのボタン操作をおこなうと1分間表示部が点灯します。

使用上の注意

床暖の温度調節について

床暖の温度調節は、足元（床暖パネルの表面温度）の温度調節のためであり、部屋全体の温度調節ではありません。カーペットの表面温度が熱くなりすぎないよう使用温度には十分注意してください。

循環水の凍結予防（循環液の注入）

寒冷地だけでなく暖かい地域でも凍結予防及び腐食予防のために必ず循環液を入れてください。

●循環液は必ずコロナ床暖房用循環液（別売品）をご使用ください。他の不凍液を使用したり、混合したりすると製品の寿命が短くなります。

●循環液は3年を目安に入れかえてください。（開封した循環液も含む）

結露水の処理

排気管に結露水がたまった場合は、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。

本書の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」の他に、次の項目についても注意してください。

●クリーニング店、美容院などの化学薬品を使うところや温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。

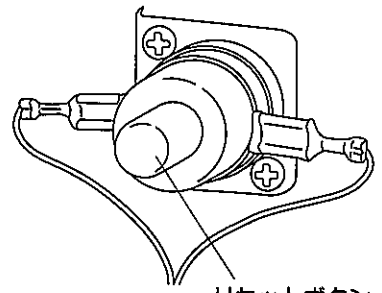
●雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。

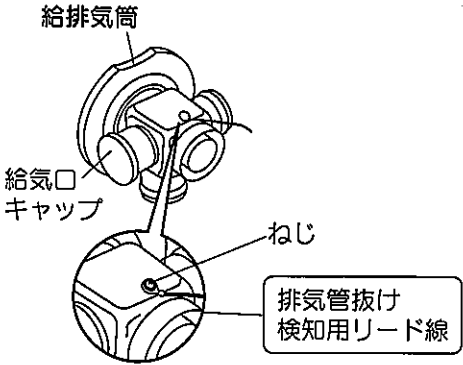
自己診断モニタ

ストーブにトラブルが発生するとトラブルの状態が設定室温表示に記号表示（自己診断モニタ）されます。

この場合は「故障・異常の見分け方と処置方法」（21～22ページ）をご覧のうえ、必要な処置をしてください。

〈自己診断モニター覧表〉

表示	原因	解除方法
E0・E4	過熱防止装置作動	運転スイッチを押してください。
E1	途中消火	
E2	不着火	
E3	対震作動	
E5	排気管抜け検知作動	
E6	ルームサーモ断線	
E7・E9	停電	
E8	疑似火炎	
EA	燃焼用送風機異常検出	
EC	ルームサーモ短絡	
Ed	対流用送風機異常検出	
EF	空気サーミスタ温度異常	
EH	表示サーミスタ温度異常	
P1	ポット予熱不足	電源プラグを抜き、30秒後に再び入れ直してください。
P2	ポット温度低下	
P3	ポット異常過熱	
P5	基板不良	
F1	熱交サーモ作動	運転スイッチを押してください。
F2	湯温サーミスタ断線	
F3	熱交保護サーモ作動	
FC	湯温サーミスタ短絡	

お願い

●販売店に連絡していただく際は、表示している自己診断モニタもお知らせください。

6 安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。
・すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
対震自動消火装置 （E3 表示）	●強い地震や衝撃を受けたとき ⇩ ・自己診断モニタ E3 表示 ・自動的に消火	●地震によって作動した場合、周囲の可燃物、機器の損傷、油もれ、給排気筒のはずれなど異常がないことを確認してから点火操作をしてください。
点火安全装置 ・ 燃焼制御装置 ●フレームロッド ［E1表示・E2表示 （途中消火）（不着火）］	●点火ミスをしたとき ●途中失火をしたとき ●炎が異常に小さいとき ⇩ ・自己診断モニタ E1 表示または E2 表示 ・自動的に消火	●「日常の点検・手入れ」（☞ 18～20ページ）をしてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
停電安全装置 ［E7表示・E9表示 （30秒以上）（5秒以上 30秒未満）］	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき ⇩ ・通電後自己診断モニタ E7 表示または E9 表示 ・自動的に消火	● E7 の場合、時計などのセットをしてから、点火操作をしてください。 ● E9 の場合、通電後再点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。
過熱防止装置 ●過熱防止サーモスタット （右） 95℃ （左） 105℃ ●サーモスタット 155℃ （E0 または E4 表示）	●フィルタやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ●熱交換器が異常に熱くなったとき ⇩ ・自己診断モニタ E0 または E4 表示 ・自動的に消火	●原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ［サーモスタットが作動した場合は、リセットボタンを押してください。］ リセットボタン

●燃焼中に停電したとき、再通電直後（ E7 または E9 表示）点火操作をすると E4 表示が出ることがありますが、これはストーブの温度が一時的に上昇するためで異常ではありません。4～5分冷却した後に点火操作をしてください。

7 その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
排気管抜け検知装置 （ES 表示）	●排気管の接続部がはずれたとき ●排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線したとき ⇩ ・自己診断モニタ ES 表示 ・ストーブの運転を停止	●給排気筒および排気管の接続部に、はずれ・ゆるみがないか確認してください。 ●排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、はずれ・切れがないか確認してください。 給排気筒 給気口キャップ ねじ 排気管抜け検知用リード線
燃焼用送風機異常検出装置 （EA 表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・自己診断モニタ EA 表示 ・ストーブの運転を停止	●異常低下の原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
対流用送風機異常検出装置 （Ed 表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・自己診断モニタ Ed 表示 ・ストーブの運転を停止	●異常低下の原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
過電流防止装置 （表示部全消灯）	●内部配線のショートにより過電流が流れたとき ⇩ ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止	●お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
循環水過昇防止装置 （F1 表示）	●循環水が極端に減少したとき ●循環水が循環しないとき ⇩ ・自己診断モニタ F1 表示 ・ストーブの運転を停止	●循環水の量を確認する等により循環水過昇原因を取り除いてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

8 日常の点検・手入れ

点検・手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ストーブが十分冷えてから必ず電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。

⚠注意 電気部品の分解や市販品との交換は絶対にしないでください。

点検・手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

● ⚠注意 ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。

■ほこり・汚れ（使用ごと）

●ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。
ストーブはいつも清潔にしてご使用ください。

■油もれ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

●置台・油タンクに油もれ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。
また、給油の際にこぼれた灯油はよくふきとってください。

お願い

●油もれがある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

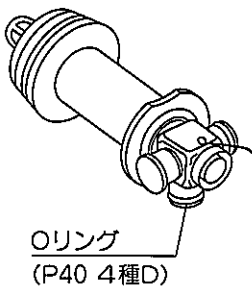
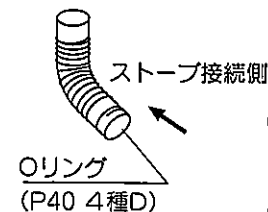
■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズンの初め）

ご注意

●ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。
屋外での使用は禁止されています。
●屋内でゴム製送油管を使用しているときは、膨潤、収縮、変質、変形、ひび割れがないか確認し、欠点があるときは交換してください。
交換の目安は、3年に一度です。

■油タンク（シーズンの初め、適時）

●油タンク内は水やごみがたまりやすいものです。給油のとき、点検してください。
油タンク内の水抜きおよび掃除は、油タンク付属の取扱説明書にしたがっておこなってください。

■給排気筒の接続部のゆるみおよびトップの周囲（使用ごと）

●給排気筒およびトップの周囲に障害物を置いていないか、ときどき点検してください。

●給排気筒がつまりますと、不完全燃焼をおこします。シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入っているときは、必ず掃除してください。

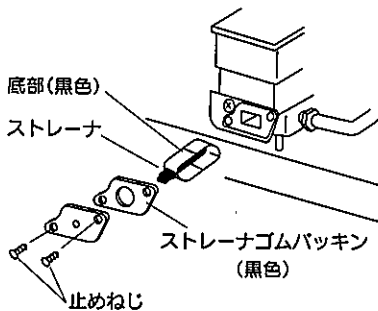
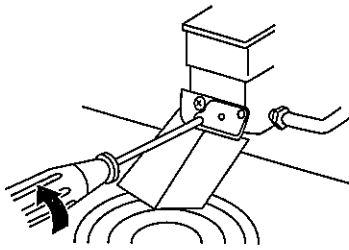
●給排気筒および排気管の接続部がはずれたり、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線していないか点検してください。

●給排気筒を一度取りはずして、再び取り付けるとき、排気管の接続内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。

お願い

●破損していた場合は、お買い求めの販売店に交換を依頼してください。

■定油面器のストレーナの掃除（適時）

●定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。ごみがたまると、灯油の流れをさまたげて不着火や途中消火の原因となります。次のように掃除してください。

●油タンクの送油バルブを閉じてください。

●ストレーナの掃除口にハガキなどの厚紙を差しこんで油ガイドを作り、その下に容器を置いてストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。
定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。

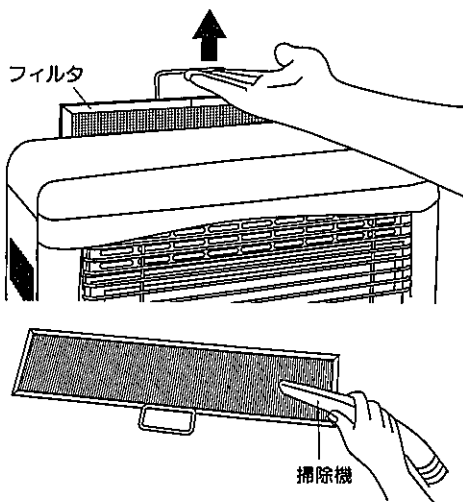
●ストレーナを取り出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。（水で洗わないでください。）

お願い

組み立てるときは

●ストレーナゴムパッキンを忘れないようにしてください。
●ストレーナを逆に入れないでください。また、底部(黒色)が必ず左横になるように取り付けてください。
●ストレーナの止めねじを固くしめ付けてください。
●油もれがないか確認してください。

■フィルタの掃除（週に１回以上）

●対流用送風機のフィルタがごみやほこりで目づまりすると、送風力が弱くなり排気温度上昇やストーブの表面温度が上昇する原因になります。(過熱防止装置または機内サーミスタの働きで運転が停止する場合があります。)
運転を停止してから次の要領でストーブ裏面のフィルタの掃除をおこなってください。

●左図の矢印のようにフィルタを上に引き出し、ストーブ裏面から取りはずしてください。

●フィルタに付着したほこりを掃除機で吸い取ってください。

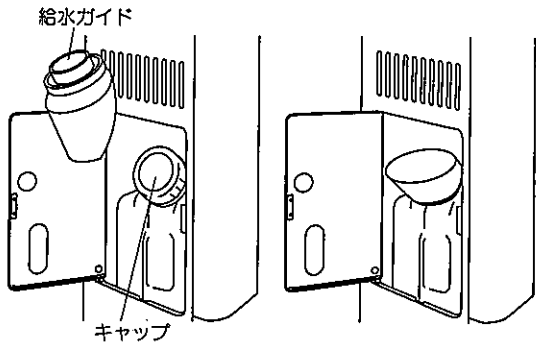
●掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

⚠注意 フィルタをはずしたまま運転しないでください。
フィルタをはずした状態で運転しますと、カーテンなどを巻きこんで火災になるおそれがあります。また、手などをふれるとけがをするおそれがあります。

■地震などの災害が発生したときの点検

●地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検をおこなってください。
・給排気筒まわりのはずれ、もれの確認
・灯油配管からのもれ確認
点検で異常がみつかった場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■循環水の補給（適時）

●シスターンタンク内の循環水は、少しずつ蒸発しますのでときどき確認してください。循環水が不足している場合は、そのつど規定水位まで床暖房専用補充液を補給してください。

1. ストーブ左側面の給水口扉を開き、給水ガイドを取り出してください。

2. シスターンタンクのキャップをはずし、給水ガイドを取り付け、水位計の規定水位（上限水位）まで循環水（床暖房専用補充液）を入れてください。

- ● コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・床暖パネル・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液で、すでに純水で適正な濃度に調合してありますので試運転時にはこのままストーブに入れてください。
- ● 他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりしますと防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに沸騰してしまうことがあります。
- ● 循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので取り扱いには十分注意してください。
- ● 循環液は3年を目安に入れかえてください。（開封した循環液も含む）
- ● 循環液の凍結温度は、－20℃に調合されています。

■温水配管の水もれの確認（適時）

●ストーブ内部や温水配管接合部から水もれがないか確認してください。

9 定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。
2シーズンに１回程度、シーズン終了後などにお買いあげ店または修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL 03-3499-2928）でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる店に点検依頼されることをおすすめします。

10 故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません

修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

	現象	説明
点火時・消火時	初めて使用するとき、煙やにおいが出る。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	すぐに点火しない。	予熱点火方式のため予熱時間が２分程度必要です。 （予熱時間は室温により多少変化します。）
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時に「ポン」と音がする。	点火するときに発生する着火音で、異常ではありません。

■使用中に異常がありましたら、次表により原因を調べて処置をしてください

原因がわからないときや処置がむずかしいときは、お買い求めの販売店、またはお近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。

※設定室温表示に自己診断モニタが表示されます。

現象 / 原因	E0 E4（過熱防止装置作動）	E1（途中消火）	E2（点火しない）	E3（対震作動）	E5（排気管抜け検知作動）	E7（停電） E9（停電）	E8（疑似火炎）	EH（表示サーミスタ温度異常）	P1（ポット予熱不足）	P2（ポット温度低下）	F1（熱交サーモ作動）
電源プラグをコンセントに差しこんでいない											
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた				●							
送油バルブが閉まっている		●	●								
ゴム製送油管に空気だまりがある		●	●								
定油面器に水、ごみの目づまりがある		●	●								
給排気筒の設置が基準通りでない。排気管が長すぎる											
対流用送風機のフィルタにほこりがたまった	●										
温風吹出口の前に障害物がある								●			
給排気筒工事不適当のため逆風現象がある		●									
ルームサーモ取付位置が悪い											
給排気筒のつまり		●	●								
油もれがある											
給排気筒接続部がはずれている。すきまがある 排気管抜け検知用リード線端子接続のゆるみ					●						
フレームロッドにすすが多量に付着した		●					●				
長時間停電があった（30秒以上－E7表示）						●					
停電があった（5秒以上30秒未満－E9表示）						●					
給排気筒トップ先端がおおわれている		●	●								
電源電圧（AC100V）が低くなっている									●	●	
シスターンの循環水不足											●
温水配管がつぶれている。温水バルブが閉じている											●

現象		説明
燃焼時・その他	青炎の中に黄色い炎(赤火)が混じる。	異常ではありません。
	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中にふくまれている水蒸気が白く見えるためで、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際、一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。
	停電したときの再通電直後（E7 または E9 表示）点火操作をすると、E4 表示が出ることがある。	停電によりストーブの温度が一時的に上昇するためで、異常ではありません。４～５分冷却した後に、点火操作してください。
	対流用送風機のフィルタ目詰まりや、温風吹出口の障害物で E0 や EH 表示の直後に点火操作をすると、E4 表示が出ることがある。	ほこりや障害物でストーブの温度が一時的に上昇するためです。ほこりまたは障害物を取り除いて、4～5分冷却した後に点火操作をしてください。

ガラス円筒がすすける	音をたてて燃える	灯油のにおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	室温が低いのに火が大きくならない	炎が大きくならない	黒煙を出して燃える	正常運転するがパネルがあたたまらない	沸騰音がする	振動が大きい	処置方法
				●							コンセントに確実に差しこむ
											19ページ「地震などの災害が発生したときの点検」の点検項目を確認し、運転スイッチを押し直し再点火する
											送油バルブを開く
											ゴム製送油管を振る。山形になっている所は平らに直す
						●					送油バルブをしめてストレーナをはずし、掃除をする。油タンクの水を抜く
●							●				基準通りに設置する
											フィルタのほこりをブラシなどで掃除をする
											障害物を取り除く
●	●	●	●				●				給排気筒の取り付けを適正にする
					●						適正な位置に取り付け直す
●	●						●				給排気筒を掃除する
		●									もれ箇所を締め直す（販売店に修理を依頼する）
		●									給排気筒接続部のはずれを直す ゆるみを直す
											すすを取り除く（販売店に修理を依頼する）
											設定室温、時刻などをセットし再度点火操作をする
											再度点火操作をする
●	●						●				おおっているものを取り除く
											⚠注意「電源の接続」（☞2ページ）の内容を点検する
								●	●	●	規定水位まで補充液を入れる
								●	●		温水配管のつぶれを直す。温水バルブを開く

11 部品交換のしかた

■部品交換のときの注意

⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店または、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会でおこなう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は コロナ純正部品 とご指定ください。

部品ご入用の際には、コロナ製品取扱販売店で必ず**コロナ純正部品**とご指定ください。
純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、ストーブを損傷したり思わぬ事故の原因になります。

消耗・劣化しやすい部品（交換が必要な部品）

■長期間の使用により消耗・劣化しやすい部品		■変質・不純灯油の使用により劣化しやすい部品
●バーナヘッド	●電極(点火プラグ)	●フレームロッド　●気化筒　●電磁ポンプ
●バーナヘッドリング	●フレームロッド	

12 保管（長期間使用しない場合）

おしまいになるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

1.電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ⚠注意 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

2.油タンクの送油バルブを閉じてください。

3.フィルタの掃除をしてください。 (☞19ページ)

4.定油面器内の灯油をすべて抜き取ってください。 (☞19ページ)

5.本体のごみやほこりを取ってください。
- ●掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

6.本体をしめらせた布で汚れを落としてから、からぶきしてください。

7.ストーブは据え付けたまま保管してください
- ●温風吹出口や背面のフィルタにほこりなどがたまらないようカバーなどをかけてください。
- ●どうしても取りはずして保管されるときは、ポリ袋をかぶせ、乾燥した場所に横倒しにしないようおしまいください。
- ●床暖の配管を接続したままで保管する場合は、上限水位まで補給しておいてください。
- ●ストーブ内の循環水を抜いて保管する場合は、エアー抜きバルブを開いておき、エアー抜きバルブ配管内も乾燥させてください。
- ●次シーズンに据え付けるときには、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

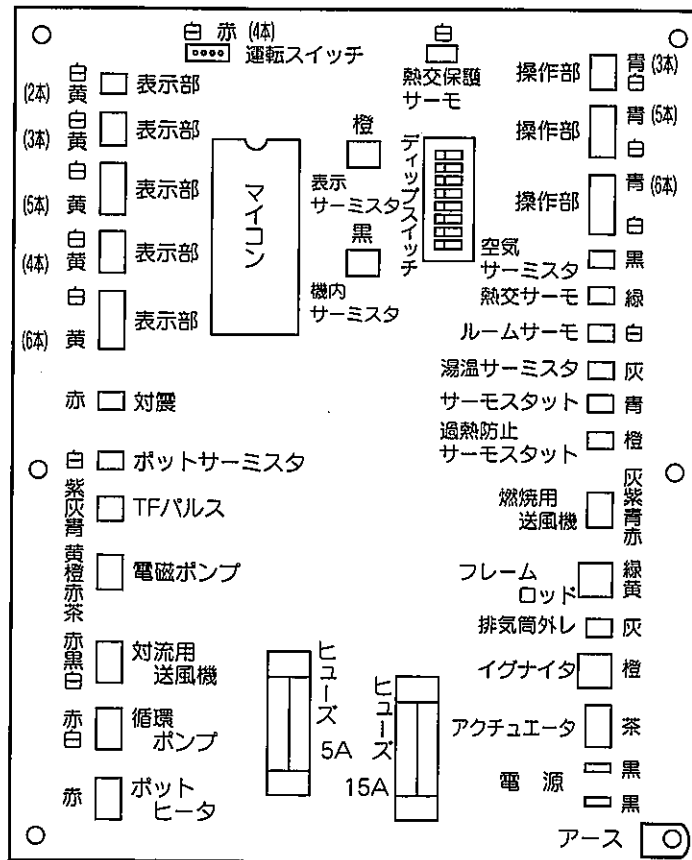
●取扱説明書も大切に保管してください。

仕　様

仕　様

型式の呼び			UH-FGX70K4	
種類			気化式・屋内用・強制給排気形・強制対流形・床暖房用	
点火方式			電気点火式	
使用燃料			灯油（JIS 1 号灯油）	
燃焼状態			最大	最小
燃料消費量	床暖房運転		0.78L/h	0.22L/h
	ストーブ単独運転		0.766L/h	0.20L/h
発熱量	床暖房運転		28,890kJ/h	8,150kJ/h
	ストーブ単独運転		28,370kJ/h	7,410kJ/h
熱効率	床暖房運転		86.6%	87.5%
	ストーブ単独運転		86.0%	87.5%
暖房出力	床暖房運転		6.95kW	1.98kW
	ストーブ単独運転		6.78kW	1.80kW
最大床暖房出力（床暖房運転）			最大燃焼時 1.51kW　循環水量180L/h	
熱効率		最高	87.5%（床暖房及びストーブ単独運転 目盛微少のとき）	
		最低	86.0%（ストーブ単独運転 目盛大のとき）	
標準適室	床暖房運転	温暖地	木造29.5m²（18畳）　コンクリート41.5m²（25畳）	
		寒冷地	木造29.5m²（18畳）　コンクリート48.0m²（29畳）	
	ストーブ単独運転	温暖地	木造29.5m²（18畳）　コンクリート39.5m²（24畳）	
		寒冷地	木造29.5m²（18畳）　コンクリート46.0m²（28畳）	
本体水容量			2L（器具内蔵シスターン上限水位時）	
床暖房用熱交換器の最高使用圧力			シスターン大気開放	
外形寸法			高さ600mm　幅698mm　奥行298mm（置台を含む）	
質量			33.5kg	
電源電圧及び周波数			100V　50/60Hz	
定格消費電力	床暖房運転		最大消費電力　880/880W（点火時） 燃焼時消費電力　50/60W	
	ストーブ単独運転		最大消費電力　860/860W（点火時） 燃焼時消費電力　31/33W	
床パネルの接続面積			4.5～16.5m²（3～10畳）（最大燃焼時）	
温水配管接続口			外径φ8mmニップル	
給排気筒の型式の呼び			QU4-8A	
給排気筒の呼び径			D40	
給排気筒の壁貫通部の孔径			φ75mm	
排気温度	床暖房運転		260℃以下	
	ストーブ単独運転		260℃以下	
電流ヒューズ			5A・15A	
安全装置			対震自動消火装置・点火安全装置 燃焼制御装置・停電安全装置・過熱防止装置	
その他の装置			過電流防止装置・排気管抜け検知装置・燃焼用送風機異常検出装置 対流用送風機異常検出装置・循環水過昇防止装置	
付属品			給排気筒セット1組・スリーブ1個・遮熱板1個・本体固定金具2個 パックチューブ2.5m・ゴム製送油管締付バンド2個・風量制御板1個	

備考 標準適室は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

プリント配線板　端子配置図

14 アフターサービス

■保証について

●このコロナ石油ストーブには保証書が付いています。
　保証書は、必ず「お買いあげ日、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。
●保証期間はお買いあげいただいた日から１年間（本体）です。（燃焼部分は３年間）
●次のような原因による故障および、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。（詳しくは保証書をお読みください。）
　■変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
　■誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるときについて

●「故障・異常の見分け方と処置方法」(☞21・22ページ)の項にしたがってお調べください。直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
●ご連絡いただきたい内容は次の通りです。
　①品名　②型式の呼び　③お買い上げ日　④故障の状況（出来るだけ具体的に）
●修理に際しましては、保証書をご提示ください。保証書の規定にしたがって、販売店が修理させていただきます。
●保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。
●ご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にお問い合わせください。
●修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。

■補修用性能部品について

●当社では、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、7年保有しています。
●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■故障・修理の際の連絡先

●お買い上げの販売店または、この取扱説明書の裏表紙に記載されている「お客様ご相談窓口」にご連絡ください。

15 据え付け

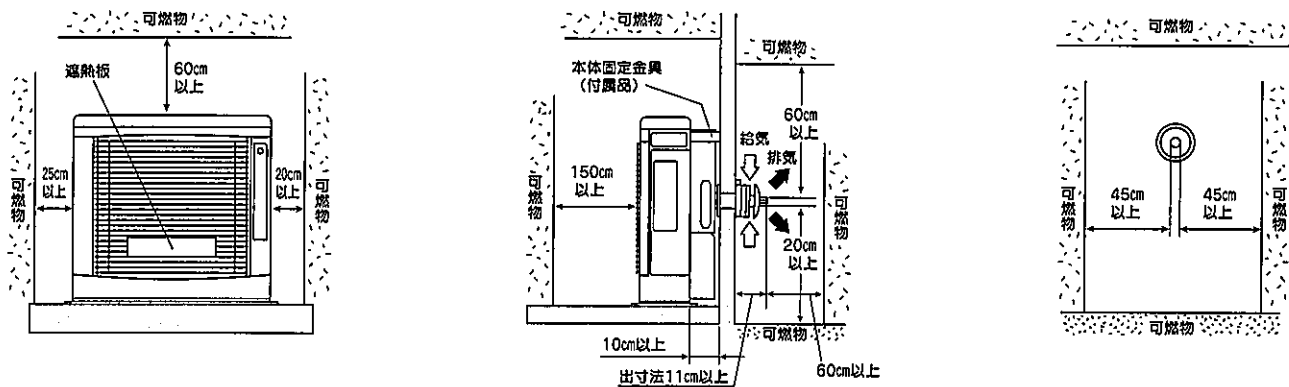
据え付け工事は販売店に依頼する

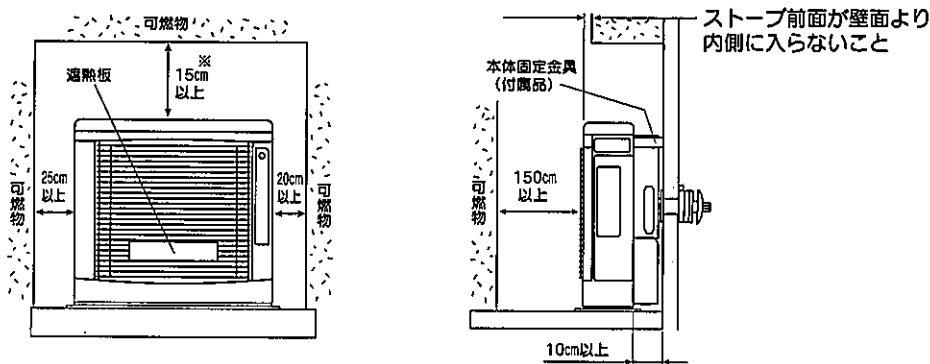
据え付けや移動工事は販売店または据え付け業者に依頼し、お客様ご自身では行わないでください。

据え付け場所の選定及び標準据え付け例

据え付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書（工事編）の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、販売店又は据え付け業者とよくご相談ください。また、「標準据え付け例」については、下図を参照してください。

標準据え付け例

ストーブの据え付けは下図を満足させる位置に取り付けてください。

●側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45cm以上とってください。
●前方に塀や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60cm以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
●給排気筒下面は地面から20cm以上離すようにしてください。なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがれるおそれのない高さを確保してください。

[マントルピースなどに設置する場合のストーブ周囲寸法]

防火性能認証品ですので※印の寸法で設置できます。

ご注意

●テレビやラジオから1m以上離してください。
●点検・手入れのためストーブ左右の離隔距離は、左側25cm以上、右側20cm以上にしてください。
●熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したり、そり返ることがあります。
●木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
●壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらない場所を選んでください。

給排気筒を延長する場合の注意

●給排気筒を延長する場合は、3m3曲がり以下で取付けられる場所を選定してください。

積雪地区における注意

●積雪の多い地方では、積雪時に給排気筒が雪でふさがれないような取付場所を選定してください。
また、風がよどむような場所では、排ガスを再度吸い込んで不完全燃焼を起こすことがあります。

据え付け後の確認

据え付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書（工事編）の「特に注意していただきたいこと（安全のために必ずお守りください）」をお読みになり、工事説明書（工事編）に記載されているとおり据え付けられているかどうかを確認してください。

遮熱板の取付方法

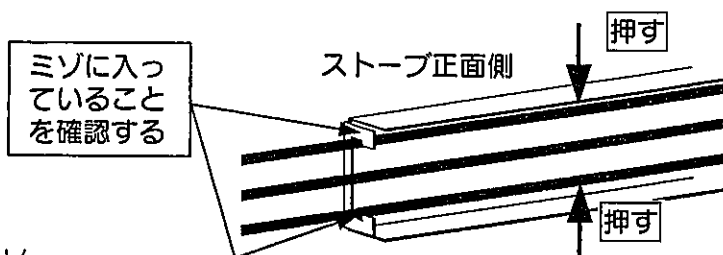
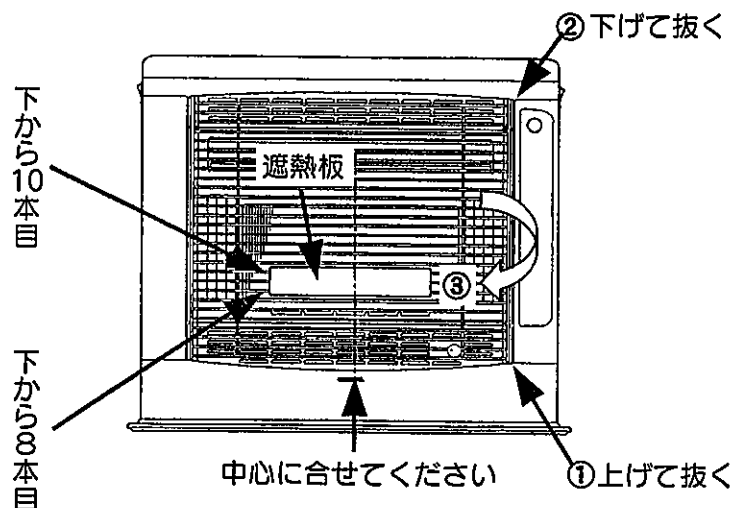
**●遮熱板はストーブ前面の床面の温度上昇を防ぐものです。
熱に弱いカーペットや床の上で長時間使用すると、変色したりそり返ることがあります。
床面の温度上昇が気になる場合、下図のように遮熱板を前面ガードに取り付けてください。**

●遮熱板の取付方法

1. 前面ガードを取りはずします。
図の①部を持ち上げてロッド下側を抜き、
次に②部を下げてロッド上側を抜くと、
③前面ガードが手前に回転してはずれます。

2. 遮熱板を取り付けます。
取り付けるロッドの位置（下から8本目と10本目）と中心を確認し、ロッドを少し押しながら遮熱板をはめ込みます。
ほうろう加工を痛めますので、ロッドの押し過ぎに注意してください。

3. 前面ガードを取り付けます。
はずした時とは逆の手順で、ロッド上側から差込み、持ち上げて下側を差込みます。

● 位置を間違えますと、遮熱の効果が得られません。
正しく取り付けてください。

試運転

試運転は販売店または据付業者とごいっしょに必ずおこなってください。

■運転準備

●⚠注意 電源プラグをコンセントに根元まで確実に差しこんでください。
●油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。
●送油経路やストーブより油もれがないか確認してください。
●配管途中にバルブなどがある場合には、全開にしてください。
●定油面器をセットしてください。(☞ 定油面器のセット　8ページ)
●タイマー運転になっていませんか。

■循環液の給水方法

1. 給水前にエアー抜きバルブが全開になっていることを確認してください。
(工場出荷時には開いてあります。)
必ず全開にしてください。

2. ストーブ左側面の給水口扉を開き、給水ガイドを取り出してください。

3. シスターンタンクのキャップをはずし、給水ガイドを取り付け、水位計の規定水位(上限水位)まで循環水(コロナ床暖房用循環液)を入れてください。

4. 運転スイッチが「切」になっていることを確認してください。

5. 操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」にセットしてください。

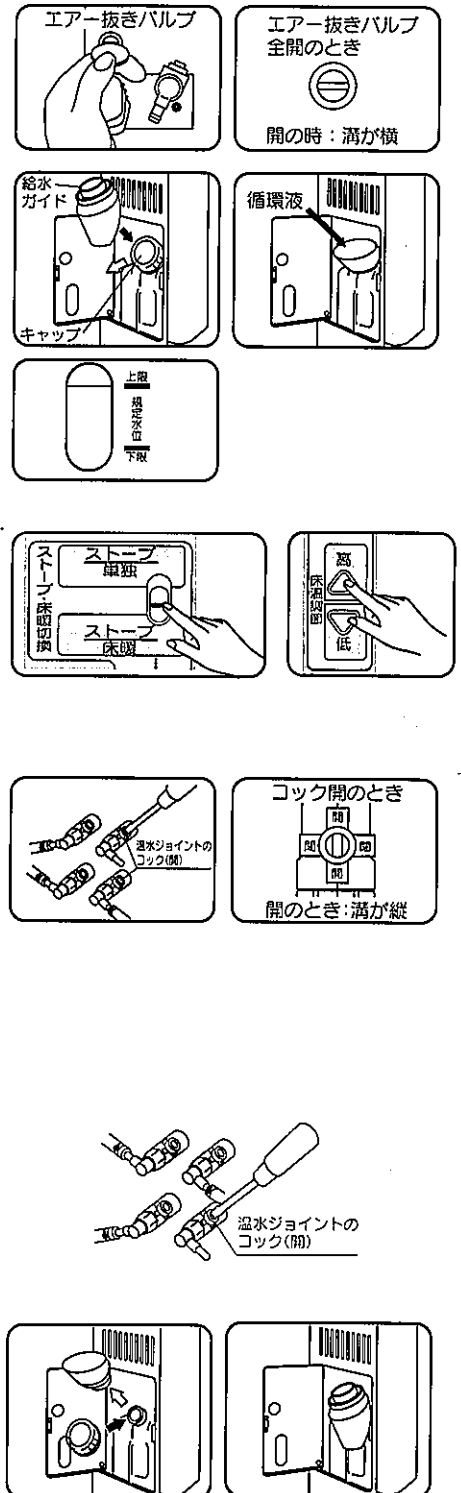
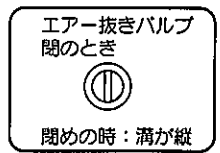
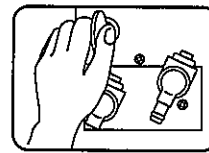
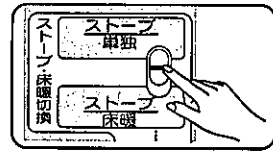
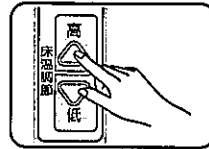
6. 操作部の床温調節ボタン「高」「低」を同時に5秒間押し続けてください。
●循環ポンプが運転を開始します。
(表示部の床暖表示部分が点滅します。)

7. 器具の左背面にある往きと戻り両方の温水ジョイントのコックを「開」にしてください。
●2回路配管の場合は、項目7、8を1回路ずつおこなってください。

8. シスターンタンクの水位が下がり始めますので上限水位まで循環液を給水してください。
(シスターンタンクの水位が下がらなくなるまで給水を続けてください。)

●温水配管施工などの関係で、エアー抜きバルブではエアーが抜けきらない場合は、次の方法があります。

(温水往き口のコックを「閉」にして温水配管接続をはずし、コックを開いて循環水を少しずつ流し、エアーを抜く
(循環液がこぼれないように容器を用意してください。))

9. シスターンタンクの水位が下がらなくなったら循環液の給水は終了です。
給水ガイドをはずし、キャップを確実に締め込んでから給水ガイドを元に戻してください。

10.エアー抜きバルブを「閉」にしてください。
●循環ポンプの運転音が静かになります。

11.温水配管経路に、水もれのないことを確認してください。
●運転の途中で床暖パネル等に水もれがあった場合は、操作部の床暖切換スイッチを「ストーブ単独」にしてください。循環ポンプが停止します。
（表示部の床暖表示部分は点滅したままです。）
ふたたび運転を開始する時は床暖切換スイッチを「ストーブ床暖」にしてください。

12.異常のないことを確認したら完了ですので操作部の床温調節ボタン「高」「低」を同時に押してください。循環ポンプが停止します。
（表示部の床暖表示部分が消灯します。）

■運転

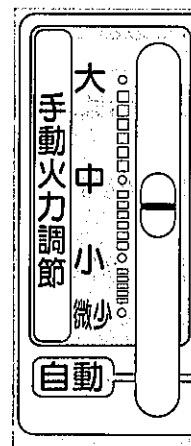
●運転は、ストーブ床暖房運転でおこない、正常に運転することを確かめてください。

ストーブ床暖房運転

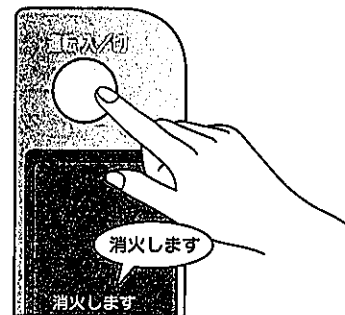
1. 運転スイッチを押して「入」にしてください。
   ●「点火します」の音声と同時に点火表示「点火します」が点灯します。
   ●**ご注意** 初めてお使いになるときは、耐熱塗料などが焼けて煙と臭いがでます。窓をあけて部屋の換気をしてください。
   ●約2分後、点火表示が消灯し、燃焼表示が点灯します。

2. 温水配管経路に水もれのないことを確認してください。

3. 異常がなければ火力調節つまみを「微少」～「大」に設定してください。しばらくして床暖パネルが暖かくなることを確認してください。
   ●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）が混じっても異常ではありません。

4. 2回路配管（2部屋配管）の場合はA回路・B回路のそれぞれ温水往き口・温水戻り口が間違いなく配管されていることを確認してください。

■消火の手順

ストーブ床暖房運転

- 運転スイッチを押して「切」にしてください。
  「消火します」の音声と同時に燃焼表示が消灯し、消火表示「消火します」が点灯します。
- 消火後は本体内部が冷却するまで送風・循環を継続し、約10分後に対流用送風機、循環ポンプが停止します。

●正常運転しない場合は、21～22ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照してください。
●保守・点検・長期間の保管などのために循環水を抜く場合は、エアー抜きバルブを開いておこない、エアー抜き配管の水の排水をしてください。
●長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい試運転をおこなってください。

ーメ モー

お客様ご相談窓口一覧表

修理サービスや製品についてのご相談は機種名をご確認の上、お買いあげの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記のお近くの窓口にご相談ください。
名称、所在地、電話番号は、変更する場合がありますのでご了承ください。

地区	名称	所在地	〒	TEL	FAX
北海道地区	札幌支店	札幌市白石区平和通16丁目南1-19	〒003-0028	TEL(011)864−0440(代表)	FAX(011)863−3154
	札幌サービスセンター	札幌市白石区米里3条2丁目6-25	〒003-0875	TEL(011)879−2121(代表)	FAX(011)871−2000
	函館営業所	函館市西桔梗町21-2	〒041-0824	TEL(0138)48−6070(代表)	FAX(0138)48−6080
	旭川営業所	旭川市東旭川南1条2丁目2-5	〒078-8262	TEL(0166)37−2330(代表)	FAX(0166)37−2338
	帯広営業所	帯広市西12条南1丁目30-1	〒080-0022	TEL(0155)35−7518(代表)	FAX(0155)35−7510
	釧路営業所	釧路市花園町4-17	〒085-0038	TEL(0154)24−4191(代表)	FAX(0154)24−0451
	北見営業所	北見市美芳町9-1-30	〒090-0064	TEL(0157)26−2103(代表)	FAX(0157)26−2107
東北地区	青森支店	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)742−8255(代表)	FAX(017)742−8275
	コロナセントラルサービス(株)青森	青森市古館1丁目12-38	〒030-0946	TEL(017)743−2971(代表)	FAX(017)743−6741
	秋田営業所	秋田市泉中央4丁目4-18	〒010-0917	TEL(018)864−5671(代表)	FAX(018)864−8468
	コロナセントラルサービス(株)秋田	秋田市外旭川三千刈109-1	〒010-0802	TEL(018)864−5219(代表)	FAX(018)864−5760
	八戸営業所	八戸市売市4丁目4-7	〒031-0073	TEL(0178)24−5289(代表)	FAX(0178)45−4290
	弘前営業所	弘前市田園1-2-1	〒036-8086	TEL(0172)28−3910(代表)	FAX(0172)28−0191
	盛岡営業所	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)622−4791(代表)	FAX(019)622−5244
	コロナセントラルサービス(株)盛岡	盛岡市門2-1-42	〒020-0823	TEL(019)604−0281(代表)	FAX(019)604−0283
	水沢営業所	水沢市水沢工業団地4丁目79	〒023-0002	TEL(0197)22−4155(代表)	FAX(0197)22−4452
	仙台支店	仙台市宮城野区日の出町1-7-32	〒983-0035	TEL(022)235−3181(代表)	FAX(022)236−8810
	宮城コロナメンテナンス(株)	仙台市宮城野区日の出町1-7-31	〒983-0035	TEL(022)783−1791(代表)	FAX(022)783−1792
	郡山営業所	郡山市亀田1-51-9	〒963-8033	TEL(024)938−2240(代表)	FAX(024)938−3021
	コロナメンテナンス福島(株)	郡山市安積町荒井字撫子東30-1	〒963-0111	TEL(024)947−4654(代表)	FAX(024)946−7651
	(有)コロナメンテナンス会津	会津若松市門田町徳久字竹之元855-10	〒965-0843	TEL(0242)26−3211(代表)	FAX(0242)26−3216
	山形営業所	山形市東青田3-6-28	〒990-2423	TEL(023)642−3255(代表)	FAX(023)642−3254
	コロナメンテナンス山形(株)	山形市東青田3-6-28	〒990-2423	TEL(023)631−7381(代表)	FAX(023)631−7391
	庄内営業所	酒田市錦町1-183-1	〒998-0103	TEL(0234)31−0571(代表)	FAX(0234)31−0581
関東地区	東京支店	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3927−1151(代表)	FAX(03)3927−1160
	東京サービスセンター	東京都北区豊島8-4-8	〒114-0003	TEL(03)3911−1131(代表)	FAX(03)3927−1130
	水戸営業所	水戸市笠原町653-2	〒310-0852	TEL(029)241−2172(代表)	FAX(029)241−4268
	千葉営業所	千葉市花見川区幕張本郷4-7-2	〒262-0033	TEL(043)274−1121(代表)	FAX(043)274−1135
	大宮営業所	さいたま市北区吉野町1-332-6	〒331-0811	TEL(048)651−1231(代表)	FAX(048)651−6370
	つくば営業所	つくば市谷田部6788-19	〒305-0861	TEL(029)839−5325(代表)	FAX(029)836−1913
	横浜支店	横浜市戸塚区原宿4丁目7-13	〒245-0063	TEL(045)852−4008(代表)	FAX(045)852−5540
	コロナテクニカルサービス(株)	横浜市戸塚区原宿4丁目7-13	〒245-0063	TEL(045)852−4802(代表)	FAX(045)852−4818
	立川営業所	立川市西砂町1-66-13	〒190-0034	TEL(042)531−6771(代表)	FAX(042)531−0496
	コロナテクニカルサービス(株)	立川市西砂町1-66-13	〒190-0034	TEL(042)531−4271(代表)	FAX(042)531−6776
	甲府営業所	山梨県中巨摩郡昭和町西条2491-2	〒409-3866	TEL(055)268−1567(代表)	FAX(055)268−1569
	コロナテクニカルサービス(株)	山梨県中巨摩郡昭和町西条2491-2	〒409-3866	TEL(055)268−1568(代表)	FAX(055)268−1571
	高崎支店	高崎市問屋町西1-3-22	〒370-0007	TEL(027)361−4806(代表)	FAX(027)361−9139
	コロナテクニカルサービス(株)	高崎市問屋町西1-3-22	〒370-0007	TEL(027)363−8955(代表)	FAX(027)364−3228
	宇都宮営業所	宇都宮市簗瀬町2313	〒321-0933	TEL(028)632−5105(代表)	FAX(028)632−5205
	コロナテクニカルサービス(株)	宇都宮市簗瀬町2313	〒321-0933	TEL(028)632−5180(代表)	FAX(028)610−4607
	太田営業所	太田市高林東町2375	〒373-0825	TEL(0276)38−6571(代表)	FAX(0276)38−5508
信越・北陸地区	新潟支店	三条市曲渕3-2-15	〒955-0864	TEL(0256)32−2126(代表)	FAX(0256)35−8519
	三条サービスセンター	三条市曲渕3-2-15	〒955-0863	TEL(0256)32−2129(代表)	FAX(0256)32−2137
	新潟東営業所	新潟市江南1-6-41	〒950-0855	TEL(025)286−9131(代表)	FAX(025)286−3313
	長野営業所	長野市大豆島5312	〒381-0022	TEL(026)221−5111(代表)	FAX(026)221−0039
	(株)コロナテクニカルサービス	長野市大豆島5312	〒381-0022	TEL(026)221−2304(代表)	FAX(026)221−1039
	上越営業所	新井市上百々倉田100	〒944-0001	TEL(0255)73−7511(代表)	FAX(0255)72−5696
	松本営業所	松本市笹賀大久保原7852	〒399-0033	TEL(0263)26−0051(代表)	FAX(0263)25−9961
	金沢支店	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260−0567(代表)	FAX(076)260−0775
	金沢サービスセンター	金沢市駅西新町1-1-25	〒920-0027	TEL(076)260−0038(代表)	FAX(076)260−0738
	富山営業所	富山市田中町2-3-15	〒930-0985	TEL(076)444−0567(代表)	FAX(076)444−0611
	福井営業所	福井市和田東1-607	〒918-8237	TEL(0776)23−0567(代表)	FAX(0776)23−0580
東海地区	名古屋支店	名古屋市港区入場1-1903	〒455-0803	TEL(052)383−3330(代表)	FAX(052)381−1266
	(株)コロナテクニカルサービス	名古屋市港区入場1-1901	〒455-0803	TEL(052)384−5670(代表)	FAX(052)381−5244
	静岡営業所	静岡市高松2-15-30	〒422-8034	TEL(054)238−0005(代表)	FAX(054)238−0006
	岐阜営業所	岐阜市六条南2-7-8	〒500-8358	TEL(058)268−7555(代表)	FAX(058)268−7550
	(株)コロナテクニカルサービス	岐阜市六条南2-7-8	〒500-8358	TEL(058)276−9788(代表)	
	津営業所	津市高茶屋3-29-38	〒514-0819	TEL(059)234−8471(代表)	FAX(059)234−8472
	(株)コロナテクニカルサービス	津市高茶屋3-29-38	〒514-0819	TEL(059)235−2755(代表)	
	沼津営業所	沼津市西椎路888-1	〒410-0303	TEL(055)968−6210(代表)	FAX(055)968−6212
	岡崎営業所	岡崎市大平町沢添49	〒444-0007	TEL(0564)25−0275(代表)	FAX(0564)25−1726
近畿・四国地区	大阪支店	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6380−2111(代表)	FAX(06)6386−7262
	大阪サービスセンター	吹田市南金田1-8-47	〒564-0044	TEL(06)6386−5670(代表)	FAX(06)6386−5588
	高松営業所	高松市今里町1-8-5	〒760-0078	TEL(087)835−1711(代表)	FAX(087)835−0160
	京都営業所	京都市伏見区竹田段ノ川原町70-1	〒612-8414	TEL(075)643−2002(代表)	FAX(075)643−0870
	神戸営業所	神戸市西区枝吉5-132	〒651-2133	TEL(078)922−2431(代表)	FAX(078)922−2438
	彦根営業所	彦根市正法寺町南出78	〒522-0024	TEL(0749)24−6239(代表)	FAX(0749)26−2116
	福知山営業所	福知山市荒河東町68	〒620-0061	TEL(0773)22−0827(代表)	FAX(0773)23−7592
中国地区	広島支店	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871−3310(代表)	FAX(082)871−3306
	コロナテクニカルサービス(株)	広島市安佐南区祇園3-27-20	〒731-0138	TEL(082)871−3315(代表)	FAX(082)871−0272
	岡山営業所	岡山市辰巳35-103	〒700-0976	TEL(086)243−7751(代表)	FAX(086)243−7191
	米子営業所	米子市目久美町235-1	〒683-0035	TEL(0859)33−8157(代表)	FAX(0859)23−0709
	徳山営業所	周南市徳山字一ノ井手5631-4	〒745-0882	TEL(0834)22−5567(代表)	FAX(0834)22−5589
九州地区	福岡支店	福岡市博多区東比恵2-2-40	〒812-0007	TEL(092)474−5771(代表)	FAX(092)474−5775
	九州コロナサービス(株)	鳥栖市酒井西町638-10	〒841-0042	TEL(0942)81−3915(代表)	FAX(0942)81−3918
	北九州営業所	北九州市小倉北区愛宕2-6-4	〒803-0828	TEL(093)592−8611(代表)	FAX(093)592−8666
	鹿児島営業所	鹿児島市田上7-16-5	〒890-0034	TEL(099)281−1321(代表)	FAX(099)281−1252
	熊本営業所	熊本市尾ノ上1-11-12	〒862-0913	TEL(096)367−7361(代表)	FAX(096)369−6323
	長崎営業所	長崎県西彼杵郡時津町左底郷浜田74-1	〒851-2106	TEL(095)882−7710(代表)	FAX(095)882−7767
	宮崎営業所	宮崎市霧島3-59-2	〒880-0032	TEL(0985)29−1680(代表)	FAX(0985)25−0685
	大分営業所	大分市三佐1-19-7	〒870-0108	TEL(097)523−5161(代表)	FAX(097)523−5162
沖縄地区	沖縄営業所	宜野湾市宇治泊738番地 シーサイド・パーク102号	〒901-2200	TEL(098)897−5677(代表)	FAX(098)897−5679

92013002

本社・工場	三条市東新保7-7	〒955-8510	TEL(0256)32−2111(大代表)
柏崎工場	柏崎市宝町2-58	〒945-0817	TEL(0257)23−5175(代表)
長岡工場	長岡市下条町倉ノ浦1069	〒940-1146	TEL(0258)22−2121(代表)

205WA0536 ·0 1 2 3 Ⓝ 16

株式会社コロナ